opusdei.org

黙想:1月5日

黙想のテーマ:「他者のため 命を捧げる」「行ないを伴う 真実の愛」「『来なさい、そ うしたら分かる』:人々を引 き寄せるのはイエス|

他者のため命を捧げる

行ないを伴う真実の愛

「来なさい、そうしたら分かる」: 人々を引き寄せるのはイエス

明日はご公現の祭日です。東の国の 賢人たちは幼子キリストを探す長い 旅の末に、ベトレヘムで主を探し当 てると「幼子を拝み、宝の箱を開け て、黄金、乳香、没薬を贈り物とし て献げた」(マタイ2・11)。賢人た ちは、マリアとヨゼフにそれぞれに 意味を持つ3つの贈りものをしま す。伝統的に、黄金は生まれたばか りの赤子が王であることを示し、乳 香はその神性を、没薬はその贖い主 としての死を象徴していると解釈さ れています。つまり、赤ちゃんは王 であり神であり救い主であるという ことです。この幼子は人となられた 創造主で、私たちのために死ぬため においでになったのです。

ゆりかごからもう十字架が始まっています。聖ルカ福音書の最初と最後の言葉を読むと、この2つの項が繋がっていることが見えます。誕生の場面ではこう述べています。「初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである」(ル

カ2・7)。そしてご死去の場面では 「遺体を十字架から降ろして亜麻布 で包み、まだだれも葬られたことの ない、岩に掘った墓の中に納めたし (ルカ23・53) と記されています。 イエスの御体は、馬小屋と墓とに、 二度寝かされたのです。ここ数日、 ミサで読まれている聖ヨハネの第一 書簡でも、別の形で、同じ神秘が表 わされています。「イエスは、わた したちのために、命を捨ててくださ いました。そのことによって、わた したちは愛を知りました」(一ヨハ ネ3・16)。この言葉には直にそれを 目撃した人の確信が感じられます。 ゴルゴタにいたヨハネは、主がどの ように十字架を抱えられたかを身近 に見て、息を引き取られるまでの主 の愛を、手で触れるように強く感じ たのでした。ヨハネはキリストの愛 が単なる言葉だけではないことを 知っていました。

続けてこう言っています。「だか ら、わたしたちも兄弟のためにいの ちを捨てるべきです| (一ヨハネ3・ 16)。今日の典礼の言葉はイエスの 弟子たる者が歩むべき道を示してい ます。聖ホセマリアは私たちに次の ように打ち明けます。「使徒聖ヨハ ネは『互いに愛し合え』と言う新し い掟を何と強調して教えたことか。 芝居がかったことをするつもりはな いが、私は自分の心の叫びに応じ、 ひざまずいてあなたたちに頼みた い。お願いだから、互いに愛し合い なさい。互いに助け合い、互いに手 を貸しあい、互いに赦し合いなさ い。と言うわけで、高慢な心をしり ぞけ、情け深い心をもち、愛徳を実 行し、互いに祈りと誠実な友情で助

け合わねばならないのである | 111。

「子たちよ、言葉や口先だけではな く、行ないをもって誠実に愛し合お う| (一ヨハネ3・18) と聖ヨハネが 言っています。「愛に言い訳は通用 しません。イエスが愛してくださっ たように愛したいと願う人は、イエ スを模範としなければなりません。 (…) わたしたちは神の子がどのよ うに愛してくださるかをよく知って いますし、ヨハネはそのことをはっ きりと伝えています。それは次の二 つの柱に基づいています。神は最初 にわたしたちを愛してくださいまし た(一ヨハネ4・10.19参照)。神は すべてを、ご自分のいのちさえも与 えて、わたしたちを愛してください ました(一ヨハネ3・16参照)。この 愛にこたえずにいることはできませ ん。その愛は、何の見返りも求めず に無条件で与えられていますが、 人々の心を燃え立たせます。そして たとえ限界や罪を抱えていても、そ の愛にこたえるよう人々を駆り立て ます。 | [2]。

イエスの力強い愛に動かされ、最初 の弟子たちはすぐに、友人や親戚に それを伝えようと出かけていきまし た。アンドレがそうでした。彼は、 主とヨルダン川のほとりで一日過ご した後、兄弟のシモンのところに行 き、主のことを話し、彼を連れてい きました(ヨハネ1・42参照)。今日 の福音書は、イエスに出会ったフィ リポが、その直後に友人ナタナエル に、ばと遭遇したとき何をしたかを 語っています。「フィリポはナタナ エルに出会って言った。『私たちは モーゼが律法に記し、預言者たちも 書いている方に出会った。それはナ ザレの人で、ヨセフの子イエス だ』| (ヨハネ1・45)。ナザレは聖 書に記されていない寒村でした。そ れで冷たい反応しかしなかったナタ ナエルに対して「フィリポは、『来 て、見なさい』と言った(ヨハネ1・ 46)

聖ホセマリアがよく教えていたことですが、神は物事を、私たちが考えるよりずっと「早く、多く、よりよく」されます。主は無限に善いお方であるがゆえに、私たちの期待や夢を遥かに超えた善いお方なのです。その弟子たる者は、信仰を証する時

にこの確信から出発します。私たち は自分の仕事をしているのではあり ません。人々の霊魂は神のもので す。私達は単に主のブドウ畑で働い ている下僕に過ぎません。フィリポ が友人に話したのは、イエスは誰を も期待外れに終わらせることはない と納得していたからです。これは私 たちの確信でもあります。人々を引 き寄せるのはイエスです。生活を変 容させるのは、主と共に生きるとい う体験によってです。私たちにも起 こったのと同じように、私たちが愛 している人たちも、主に魅惑される だろうと信じています。これが私た ちを使徒職に駆り立てる希望なので す。

弟子たちは、「あの日以来、主への愛に捉えられた"証人"になりました(フィリピ3·12参照)。そしてそのメッセージの魅力的な美しさゆえに、主との約束を裏切ることなく、死をも辞さない覚悟ができていたの

です(…)。キリストは単に、限られた人たちに心の底で語りかけ、と招きいけるようにと招きがけるようにと招きがけられるだけでなく、すべというとなっまりあなた達一人の自じるかけった質問を投げかけておられるの方では、大会の中でこの選びのしょう

ベトレヘムの馬小屋は神の教壇のようです。その教壇から、神なる幼子は、すべての人を引き寄せるため、これほど小さくなられことによるとて、他者に自己の全てを与えるということを教えられ、私たちを目覚めさせくれるのです。実際にその両手にその愛を持っておられます。

[1] 聖ホセマリア『鍛』454番。

2017年11月19日。

[3] 聖パウロ六世、ローマの学生た ちへの講話、1978年2月25日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-koutan-0105/(2025/12/17)